

---

# 東京都微生物検査情報

## MONTHLY MICROBIOLOGICAL TESTS REPORT, TOKYO

---

第 37 卷 第 12 号  
2016 年 12 月号  
月 報

 東京都健康安全研究センター

*<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>*

---

ISSN 1883-2636

## 平成 27 年の食中毒発生状況

平成 27 年に全国および東京都内で発生した食中毒事件の概要と特徴について、厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部並びに東京都福祉保健局健康安全部の資料に基づいて紹介する。

### 1. 全国における食中毒発生状況

食中毒事件総数は 1,202 件、患者数は 22,718 名（死亡者 6 名）であり、事件数は前年比 1.23、患者数は前年比 1.17 であった。事件数は平成 25 年、26 年と 2 年連続で 1,000 件を下回っていたが、平成 27 年は再び増加し 1,200 件を上回った。

事件数を原因物質別に見ると、細菌性食中毒は 431 件（35.9%）、前年比 0.98 でやや減少した。原因菌別の第 1 位は平成 15 年以降 13 年連続でカンピロバクター 318 件（26.5%）、以下、黄色ブドウ球菌 33 件（2.7%）、サルモネラ 24 件（2.3%）、ウエルシュ菌 21 件（1.7%）、腸管出血性大腸菌 17 件（1.4%）、セレウス菌 6 件（0.5%）、腸管出血性大腸菌以外の大腸菌 6 件（0.5%）、腸炎ビブリオ 3 件（0.2%）、その他の細菌が 3 件（0.2%）であった。

細菌性食中毒の患者数は 6,029 名（26.5%）、前年比 0.84 でやや減少した。患者数の多い原因菌は、カンピロバクター 2,089 名、次いでサルモネラ 1,918 名であった。1 事件あたり患者数 500 名以上の大規模食中毒は 12 月に 1 件発生しており、愛知県の仕出し屋で製造された弁当を原因とするサルモネラによるもので、患者数は保育園児・幼稚園児および職員を含む 576 名であった。検食のマカロニソテー（合びき肉やタマネギ等と炒めたもの）からも患者と同じサルモネラ（*S. Typhimurium*）が検出され、発生要因は合びき肉の加熱が不十分であった可能性が考えられた。

一方、ノロウイルスによる食中毒は事件数 481 件（40.0%）、患者数 14,876 名（65.5%）と最も多かった。前年比は事件数 1.64、患者数 1.42 と増加した。1 事件あたり患者数 500 名以上の大規模食中毒は 1 件発生し、愛知県で 3 月に発生した弁当を原因とした患者 1,267 名の事件であった。

平成 25 年より食中毒病因物質の種別に追加されたアニサキスは 127 件、クドア・セプテンブン

クタータは 17 件であった。化学物質による食中毒は 14 件、植物性自然毒は 58 件、動物性自然毒は 38 件であった。その他の 1 件はコルヒチン（アルカロイドの一種）を病因物質とする患者 2 名の事例であった。

食中毒による死亡者は 6 名であったが、うち 2 名は前述のコルヒチンによるもの、2 名は植物性自然毒（イヌサフラン）、2 名は動物性自然毒（フグ、アオブダイ）によるものであった。これらはすべて高齢者の誤食が原因と考えられ、厚生労働省から各都道府県等へ、一般への注意喚起情報、高齢者施設を通じる等効果的な広報を提供するよう通知が出された。（生食監発 0401 第 1 号）

### 2. 東京都における食中毒発生状況

都内の食中毒発生状況は、事件数 149 件（患者数 2,258 名）であり、平成 26 年の事件数 103 件（患者数 1,096 名）と比べ、事件数は 1.45、患者数は 2.06 に増加した。食中毒 149 件中、細菌によるものは 68 件（45.6%）であった。原因菌ではカンピロバクターが最も多く 48 件（32.2%）、以下、サルモネラ 7 件（4.7%）、腸管出血性大腸菌 5 件（3.4%）、黄色ブドウ球菌 4 件（2.7%）、ウエルシュ菌 2 件（1.3%）、セレウス菌 2 件（1.3%）、腸炎ビブリオ 1 件（0.7%）であった。細菌性食中毒の患者数は 519 名（23.0%）、前年比 1.46 で増加した。患者数では、カンピロバクター 273 名、次いでサルモネラ 110 名、ウエルシュ菌 63 名で、患者数 100 名以上の大規模な事件はなかった。

ノロウイルスによる食中毒は、事件数 56 件（37.4%）、患者数 1,576 名（69.8%）と共に最も多く、前年比はそれぞれ 2.54 および 2.62 で、事件数、患者数ともに前年より 2 倍以上増加した。平成 26 年は患者数 100 名以上の大規模な事件はなかったが、平成 27 年はノロウイルスによるものが 3 件あり、発生日は 2 月に 2 件、10 月に 1 件で患者数はそれぞれ 321 名、105 名、103 名で、原因食品はいずれも飲食店が提供した弁当や食事であった。

アニサキスによる食中毒は 13 件発生し、生鮮魚介類を原因とするものが多かった。クドアによる食中毒は 1 件発生し、ヒラメの握り寿司を喫食していた。

化学物質による食中毒は6件でヒスタミンによるものが5件、塩素によるものが1件であった。塩素による事例は患者数5名で、飲食店で塩素が混入した水（有効塩素510 mg/L）を提供したことにより発生した。植物性自然毒による食中毒は1件で、バイケイソウ類によるものであった。

また、原因物質不明の食中毒は4件（患者数88名）あり、すべて飲食店で提供された食事が原因

で発生した。うち3件はカンパチのお造りを喫食しており、検体の一部から粘液胞子虫の遺伝子が検出されたが、ヒトに対する病原性が明らかでないことから原因物質の特定には至らなかった。

微生物部食品微生物研究科 尾畑浩魅

表 平成27年の食中毒発生状況

原因物質	全国			東京都		
	事件数(%)	患者数(%)	死者数	事件数(%)	患者数(%)	死者数
サルモネラ	24 (2.3)	1,918 (8.4)	—	7 <sup>1)</sup> (4.7)	110 <sup>1)</sup> (4.9)	—
黄色ブドウ球菌	33 (2.7)	619 (2.7)	—	4 (2.7)	31 (1.4)	—
腸炎ビブリオ	3 (0.2)	224 (1.0)	—	1 (0.7)	4 (0.2)	—
腸管出血性大腸菌	17 (1.4)	156 (0.7)	—	5 (3.4)	32 (1.4)	—
その他の病原大腸菌	6 (0.5)	362 (1.6)	—	—	—	—
ウエルシュ菌	21 (1.7)	551 (2.4)	—	2 (1.3)	63 (2.8)	—
セレウス菌	6 (0.5)	95 (0.4)	—	2 (1.3)	8 (0.4)	—
カンピロバクター	318 (26.5)	2,089 (9.2)	—	48 <sup>1)</sup> (32.2)	273 <sup>1)</sup> (12.1)	—
その他の細菌	3 (0.2)	15 (0.1)	—	—	—	—
細菌性総数	431 (35.9)	6,029 (26.5)	—	68 (45.6)	519 (23.0)	—
ノロウイルス	481 (40.0)	14,876 (65.5)	—	56 (37.6)	1576 (69.8)	—
その他のウイルス	4 (0.3)	251 (1.1)	—	—	—	—
アニサキス	127 (10.6)	133 (0.6)	—	13 (8.7)	14 (0.6)	—
クドア・セプテンペンクタータ	17 (1.4)	169 (0.7)	—	1 (0.7)	2 (0.1)	—
化学物質	14 (1.2)	410 (1.8)	—	6 (4.0)	57 (2.5)	—
植物性自然毒	58 (4.8)	178 (0.8)	2	1 (0.7)	2 (0.1)	—
動物性自然毒	38 (3.2)	69 (0.3)	2	—	—	—
その他	1 (0.1)	2 (0.0)	2	—	—	—
原因物質不明	31 (2.6)	601 (2.6)	—	4 (2.7)	88 (3.9)	—
合計	1,202 (100.0)	22,718 (100.0)	6	149 (100.0)	2,258 (100.0)	—

1) 1 事件(患者数2名)はサルモネラおよびカンピロバクターとの混合感染(重掲)

表1 病原体搬入・検出状況(4種等)\*

2016年12月分

機関名		コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフス A菌	腸管出血性 大腸菌	結核菌
区	千代田区						
	中央区						
	港区					3	
	新宿区		1				
	文京区						
	台東区						2
	墨田区						
	江東区		1				
	品川区						
	目黒区						
	大田区						
	世田谷区		1				1
	渋谷区						
	中野区						
	杉並区					2	
	豊島区					2	
	北区					2	5
	荒川区						
	板橋区					1	1
	練馬区						
足立区					1	1	
葛飾区							
江戸川区							
市	町田市						
	八王子市						
小 計			3			11	10
都	西多摩						
	多摩立川						
	南多摩						
	多摩府中					1	2
	多摩小平						
	島しょ						
小 計						1	2
合 計			3			12	12
健康安全研究センター 検出分						5	

\*2016年4月より、各保健所から搬入された検体を集計することとした。

表2 検体搬入状況(全数把握対象疾患-五類)\*

2016年12月分

	検体数	2016年累計
侵襲性インフルエンザ菌感染症(菌)	1	35
侵襲性髄膜炎菌感染症(菌)		3
侵襲性肺炎球菌感染症(菌)	12	113
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(菌)	7	84
播種性クリプトコックス症(菌)		16
合計	20	251

※2016年4月(第37巻・第4号)から追加

表3 病原微生物検出状況(食中毒関連)

2016年12月分

	病原体名	検体数	2016年累計
細菌	大腸菌		
	毒素原性		46
	組織侵入性		
	病原血清型		
	腸管出血性		66
	その他・不明		
	サルモネラ		
	O4	1	35
	O7		5
	O8		18
	O9		2
	不明		
	腸炎ビブリオ		12
	その他のビブリオ		1
	カンピロバクター	7	176
	黄色ブドウ球菌		19
	A型ウェルシュ菌	1	72
ボツリヌス菌			
リステリア・モノサイトゲネス			
セレウス菌		1	
ウイルス	ノロウイルス(G I)	2	93
	ノロウイルス(G II)	426	1,403
	ノロウイルス(G I, G II)	2	19
	ロタウイルス		
	サボウイルス		1
寄生虫	アニサキス	2	25
	クドア		2
合計		441	1,996

**表4 HIV 検査数及び陽性数**

2016年12月分

	男性		女性		性別不明		合計	
	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数
東京都南新宿検査・相談室	530	6	286	0	0	0	816	6
保健所等	184	5	64	0	1	0	249	5
合計	714	11	350	0	1	0	1,065	11
2016年累計	8,978	113	3,608	0	6	0	12,592	113

**表5 性感染症検査数及び陽性数**

2016年12月分

	梅毒検査		クラミジア遺伝子検査		淋菌遺伝子検査	
	検査数	陽性	検査数	陽性	検査数	陽性
東京都南新宿検査・相談室	771	35	390	19	390	0
保健所等	237	3	235	10	118	0
合計	1,008	38	625	29	508	0
2016年累計	8,094	435	3,593	185	2,748	5

**表6 定点把握疾患別病原体分離状況（ウイルス）**

2016年分

定点種別	対象疾患名	検出病原体	10月	11月	12月	合計
小児科	咽頭結膜熱	アデノウイルス		1	2	3
	RSウイルス感染症	RSウイルス			1	1
	流行性耳下腺炎	ムンプスウイルス	3	2	2	7
インフルエンザ	インフルエンザ及びインフルエンザ様疾患 (ILI)	インフルエンザウイルスAH1pdm09		1	2	3
		インフルエンザウイルスAH3	4	15	37	56
		インフルエンザウイルスB型Yamagata系統			1	1
基幹	無菌性髄膜炎	エンテロウイルス			1	1

◆東京都微生物検査情報◆

2017年 1月 26日

編集・発行

東京都健康安全研究センター

〒169-0073

東京都新宿区百人町 3-24-1

TEL:03-3363-3213

FAX:03-5332-7365

S0000786@section.metro.tokyo.jp

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>